

## BOOK REVIEW

## 妊娠と授乳 改訂 4 版

編：伊藤真也/村島温子/後藤美賀子

本書は 2010 年に第 1 版が発刊されて以来、妊婦・授乳婦の薬物療法の際に、医師・薬剤師が添付文書に加えて利用してきた、本領域の第一人者でいらっしゃるトロント小児病院・トロント大学名誉教授の伊藤真也先生、妊娠と薬情報研究会理事長の村島温子先生、成育医療研究センター妊娠と薬情報センターの後藤美賀子先生が編集を担当されている。

今回の改訂 4 版は、第 1 章「妊娠期の薬物療法」、第 2 章「授乳期の薬物療法」、第 3 章「妊娠と授乳の医薬品情報」が総論的な位置づけとなっており、妊娠・授乳期における薬物療法のベネフィット・リスクを理解するための基礎知識を身につけられる内容となっている。第 4 章「医薬品情報サマリー」は、抗菌薬からはじまり、造影剤、放射性医薬品にいたるまで、疾患・薬効別治療薬に関する 51 の各論で構成されている。序文で伊藤真也先生が述べておられるように、わが国の本領域の診療経験の蓄積を考慮して 3 版まで掲載されていた「症例から学ぶ妊娠・授乳期の薬物療法」が削除されている。これは読者の経験値に即したご英断であり、読者が必要としている情報密度の向上が意図されている。

一方、各論にあたる「医薬品情報サマリー」においては「COVID-19 治療薬」の項が新設されるとともに、総合評価の表に改良が加えられ、各薬剤の解説には最新のエビデンスを吟味したうえでの要約記載が加えられており、本書を利用する読者の満足度と安心感につながっている。また、各論の構成において、前版では「非妊娠期」「妊娠期」「授乳期」と区分されていた見出



B5 判/595 頁

定価：9,900 円（本体 9,000 円 + 税 10%）

発行：南山堂（2025 年 3 月 発行）

しが、4 版では「非妊娠期」が「妊娠計画期」に置き換わり、一般的な薬剤情報ではなく「妊娠計画期」における留意事項に関してガイドラインやエキスパートコンセンサスをもとに解説されている。こうした改良は、読者が求める情報の密度向上につながっている。

本書は妊婦・授乳婦領域のチーム医療に従事する医師、薬剤師、助産師などの医療従事者にとって、薬物療法の最適化の羅針盤・情報源として、ぜひ手元に置いておきたい一冊となっている。

虎の門病院 薬剤部 薬事専門役 林 昌洋